



2013年12月号

友達にメガネをからかわれた娘(小2)について、先生への面談申込み

担任の先生へ相談と面談のお願い

- ① いつも由衣が大変お世話になっております。(冒頭)
 - ② 本人が友達とのことで少々悩みを抱えており、面談の上ご相談させていただきます。お手紙を差しあげました。
 - ③ すでに連絡帳にてお知らせしましたが、由衣は1週間ほど前から、近視のためメガネを着用しております。どうやら、そのことでお友達に何かを言われたらしく、昨日から、メガネを着て学校へ行くのを嫌がるようになりました。
 - ④ 由衣は「からかわれた」と言っていますが、さらに詳しく聞こうとするのしやべりたくないような素振りを見せます。そのため、どのような内容なのか、またどの程度なのか、本人の説明だけでは判断がつかないところもあります。
 - ⑤ 今朝は、無理にさせても学校で外してしまうのではとも思いますが、登校時にはメガネを着用させませんでしたが、クラスでの様子など気になっております。早い時期に、先生にご指導いただけたら心強く存じます。
- お忙しい時期とは思いますが、来週の前半にご相談に伺えたら幸いです。ご都合の良い日時を自宅の電話、または私の携帯電話にご連絡くださいませ。
- どうぞ、よろしくお願いたします。

平成25年10月20日(日付)

かしこ(結語)

山〇子(名前)

①まず、手紙の目的を明らかにしよう

連絡帳などではなく、保護者からの手紙は用件もそれなりのこと。最初に手短かに内容について説明しておく、先生もその後に関心本題が理解しやすくなります。

②子どもが抱えている問題とは?

事の起こりと、子どもの様子を客観的に簡潔に述べてください。子ども・お母さんの気持ちの描写などを詳しく書くと、手紙の本題が見えにくくなります。

③親として、問題をどう判断しているか

自分の子どもの話だけでは、トラブルの全容はわかりません。スムーズに事実確認をすすめるためにも、親としても冷静な判断をしたいという気持ちを伝えましょう。

④先生を頼りにしているという気持ちを伝える

家庭では子どもにどのように接しているかを簡単に記して、学校での子どもの変化や様子を見守ってほしいことをお願いします。先生のことを信頼して問題を相談しているという気持ちを素直に伝えましょう。

⑤面談の日時などを具体的に決める道筋をつける

いつ会いに行きたいかを告げて、返事がほしい旨とその方法を明確に書いておきましょう。

今月のお題
書く技術 2

友達にメガネをからかわれた娘(小2)について、先生への面談申込み

一方的な内容の文章にならないように気をつける



いじめとはいかないまでも、子どもが友達と上手くいかなくて元気がない姿は、お母さんも心配ですね。今回のようなケースは、自分の子どもだけのことでなく、相手のあること。学校生活をもとにするクラスメイトが関わっているのです。やはり担任の先生に直接会って話をすることが望ましいでしょう。まして、メガネという健康や学習にも関わることで、なるべく早めに解決してあげたいもの。そのためには面談は電話ではなく、手紙で申し込むことをおすすめします。

スムーズな解決のために
文章で情報の共有を

子ども同士のトラブルを事のはじまりから現在に至るまで、電話など話し言葉だけですべて説明しようとする、因果関係などがわかりにくくなります。文章にした方が、書く方も読む方も同じ情報を正確に共有することができるとは、自分の視点や立場からしか話すことができません。社会的な経験が積んだ大人とはちがって問題解決のための客観的な分析や、まわりを見渡す広い視野などを子どもに求めることはむずかしいもの。できれば、相談の手紙は、お母さんはお子さんに代わり、そういった点を補うつもりで書いてほしいのです。

論理アタマを育てよう! ママのための 日本語トレーニング vol.6



子どもが学校で友達とトラブルを抱えたら、先生への面談のお願いは電話よりも手紙がおすすめです。子どもの様子や親として何を心配しているのか、文章にしてみると、自分にとっても相談したい点が明確になりますよ。

自己主張ばかりの文章は
読みにくいものです

*問題のあらまし
*子どもからの説明と今の様子
*家庭での現在の対応

とができるのです。そして情報の共有こそが、解決への筋道をつける第一歩。手紙は少し手間がかかりますが、話を論理的に進める端緒になりますから、結局は早道なのです。手紙を書くときに注意してほしいのは、「一度の手紙にテーマはひとつ」ということ。今回の目的は「問題解決のために先生の指導をお願いすること」ですね。そのためには、自分の子どもの話を元にした一方的な内容の文章にならないように気をつけることがポイントです。お母さん方はよくご存じかと思いますが、問題の当事者になってしまった子どもは、自分の視点や立場からしか話すことができません。社会的な経験が積んだ大人とはちがって問題解決のための客観的な分析や、まわりを見渡す広い視野などを子どもに求めることはむずかしいもの。できれば、相談の手紙は、お母さんはお子さんに代わり、そういった点を補うつもりで書いてほしいのです。

〈手紙の基本的な頭語と結語〉

- *頭語**
本来であれば「木々の梢も色づいてまいりました」といった時候の挨拶から始まりますが、今回は急ぎの用件になりますので必要ありません。文例のように「いつも〇〇が大変お世話になっております」から書き出してください。
- *結語**
「かしこ」は、女性だけが使える結語。文末に書き添えるとやわらかい印象になります。
- *日付と名前**
手紙はひとつの記録です。日付と名前は忘れずに。手書きの場合はコピーなどの控えをとっておくといでしょう。

